独立行政法人国立病院機構
沖縄病院　広報誌
発行日
平成25年1月15日
第28号
発行所
沖縄県宜野湾市我如古3丁目20-14
編集発行　広報委員会

**基本理念**　患者さまの立場を尊重し高度で良質の医療を提供します。

**八重岳の桜**：当院から北に約50㎞。沖縄では1月下旬頃から鮮やかなピンク色の緋寒桜が咲き始める。名護・本部半島には緋寒桜の名所が多く、特に八重岳は有名。毎年「本部八重岳桜まつり」が開催され、日本一早い桜まつりとして知られる。

## 運営方針

①政策医療を中心に、質の高い適切な医療サービスの提供

②患者さまの視点に立った、温かく思いやりのある接遇

③健全な経営基盤の確立

④安心して療養に専念できる快適な環境

⑤臨床研究の活性化と臨床教育・研修機能の充実

表紙の花：ツワブキ（石蕗、艶蕗）：学名：Farfugium japonicum／キク科／多年生草本・常緑で地下茎で伸び地上には葉だけ伸び、葉はフキに似ている。幅広く艶のある葉が特徴で、秋から初冬に花茎を延ばし5cmほどの散房花序の黄色い花を咲かせる。園芸植物としても人気。沖縄口では「ちぃぱっぱ」とも呼ばれる。

## 目次 CONTENTS

年頭の挨拶
○院　長 …… 2
○副院長・事務部長 …… 3
○看護部長 …… 4
新園舎へ引っ越しました（保育園） …… 4
西病棟に「パッチアダムス」が来る! …… 5
第2回ISO内部監査を実施して …… 6
係長任用候補者選考試験を受験して …… 6
慰霊祭後に合同家族会を開催して …… 7
幹部看護師任用候補者選考職員研修を実施して …… 7
クリスマスコンサートを開催して …… 8
沖縄病院一般向け無料公開講座 …… 8
忘　年　会 …… 9
感染防止対策委員会を開催して …… 9
研 修 報 告 …… 10
外来診療科担当医表 …… 12

**ロゴマークの意味**　南国沖縄のイメージを表現する為に、原色（はっきりとした色）を基調とし、ベースは沖縄 okinawa の"O（オー）"を表しています。肉太い赤で太陽を表現。中は波をブルーで表し、全体として健康を象徴する人間の笑顔をかたち取っています。

# 年頭の挨拶

院長　石川 清司

新春のお慶びを申し上げます。

重苦しい 1 年が経過しました。独立行政法人組織への移行を、職員の懸命な努力により乗り越えてきたかのように思えた病院運営も、経営基盤のもろさを露呈してしまいました。「機構病院リスタートプラン」の要改善病院の指定を受けたのです。

しかし、この事態が職員の怠慢によるものでないことは、かねてより危惧し主張してきたところです。やはり、診療も、病院運営も要所で勝負にでることは必要なことでした。民間組織における先行投資的な発想が皆無であったところに、時代の流れについて行けなかったのです。

沖縄県の地域医療における、「神経・筋疾患」「肺癌診療」の中核施設でありながら、CT4 列、MRI が 1.0 テスラ、定位照射のできない放射線治療装置。竹槍でもって戦線をくぐり抜けてきた職員は、周辺医療機関の重装備に対して劣等感にさいなまれてきました。大型医療機器の共同利用などの文言は全く意味をなさないものでした。「償還計画」を楯に、徹底的に抑止策を指示してきた中央の指導は職員の志気をそぐものでした。

電子カルテを導入しました。沖縄県の地域医療再生計画の予算でもって 64 列の CT に更新しました。筋電計・MRI の更新、そして血管造影が可能な透視装置が導入されます。

院内保育所が完成、筋ジス病棟の建て替えが間近です。結核病棟の 7：1 看護配置が実現しました。筋ジス病棟も同様の看護配置が計画されています。理学療法室、地域連携室のスタッフが増員され強化されます。

医師数 20 名規模の病院が近隣の総合病院と対等に診療の質を競うためには、チーム医療とたゆまぬ研鑽が要求されます。臨床と臨床研究を車の両輪として、ISO の基本理念である PDCA サイクルの回転速度を上げるとともに持続的回転が必要となります。

職員に、一層の団結を呼びかけます。平和な世界と政局の安定を願います。そして少子高齢化社会の中に、人と人との絆が保たれ、思いやりの輪が築かれることを祈ります。厳しさの中にも、働き甲斐、生き甲斐、達成感の感じ取られる職場をめざします。

**「暗いと不平を言うよりも、
すすんで灯りをつけよう」**

2013 年　沖縄の桜の季節に

# 年頭所感

副院長
**川畑　勉**

新年明けましておめでとうございます。平成25年の新春を迎えるにあたり、職員の皆様が健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、平成23年度に導入いたしました電子カルテによる業務も今では軌道に乗ったところですが、導入初年度は導入時の混乱や医師の離職による後任の補充ができず、多くの医師・看護師・職員の皆様に過重な負担をお願いせざるを得なかったこと、また多くの患者様にも医療・看護の提供において十分に行き渡らなかったことをお詫び申し上げます。結果として、患者数の減少を招き、経常収支も赤字からスタートした昨年でした。まさに再出発の年だったのです。しかし、職員の皆様のご協力のおかげで急性期看護補助体制加算をはじめ感染対策防止加算など新たに6つの施設基準を取得しました。患者数も徐々にではありますが、増加しています。今だからこそ患者様が安心して満足した医療が受けられますようまず医療安全を第一に意識しながら、次に病院の理念にもつながる『患者様の立場に立った高度で良質な医療・看護の提供と真心のこもった対応』ができるよう一人の職員として心がけていき、またすべての職員にもそれを求めたいと思います。

昨年4月に当院は沖縄県難病医療拠点病院に指定されました。神経・筋・難病医療の拠点・中心として全県から期待されています。個々においては技量の向上をめざしつつ、チーム医療でさらなる飛躍をしてその期待に応えたいと思います。また、昨年11月にはCTの64列への機種の更新がありました。今年はMRI装置の更新が決まっています。最新の大型機器導入により、患者様への放射線量や検査での負担の軽減が図られるばかりではなく、診断技術のさらなる向上が期待できます。外科においても胸腔鏡などビデオシステムの更新が予定されています。ここでも手術手技のさらなる向上が期待されます。

本年を診断から治療（手術）まで『患者様の体に優しい医療』として還元できる第1歩の年にしたいと思っています。それを実践することによって肺癌・結核を中心とする呼吸器疾患治療の拠点病院として県民の付託に応えたいと考えています。また当院は緩和医療の分野ではすでに県内多施設から指導的役割を求められています。緩和医師・病棟スタッフのこれまでの努力が県内多くの病院から評価されてのことだと思います。

以上、県内全域の患者様からの期待に応え、ごく自然に『患者様の立場に立った医療・看護』の提供ができるよう力を合わせていきましょう。

平成25年巳年が職員の皆様にとりまして健康で希望に満ちた一年となりますよう心から祈念して私の年頭の挨拶と致します。

# 年頭の挨拶

事務部長
**野口　詠児**

新年あけましておめでとうございます。平成25年という節目の年を迎え、皆様それぞれ新たな決意を胸に職務に励まれておられることと思います。

まず機構全体のことについて言えば、今年は私共の組織も独立行政法人へ移行してからまる10年目となり、第2中期計画の最終年度にあたります。また、平成26年度からの新法人化に向けての諸準備を進めなければならない年ともなっており、10年前の独法化に匹敵するほどの大規模な組織改革が待ち受けているのかどうか、全く予断を許さない状況ではないかと思われます。一方当院の状況ですが、平成24年度は前年度決算で経常収支率100%未満となったことから「機構病院リスタートプラン」における要改善病院の指定を受けました。幸いにも病院挙げての取り組みが功を奏し、本年度については経常収支率100%以上となることはほぼ確実な情勢となっております。医療機器関係では年末にCTが64列で更新され、本年早々よりMRI（1.5テスラ）の更新作業に入ります。その他透視撮影装置も3月までに更新される予定となっております。建物整備においては昨年保育園の移転建て替えが完了し、いよいよ筋ジス病棟の建て替え工事が始まります。またこれに続き一般病棟・外来管理棟等病院全体の建て替え計画が控えておりますが、是が非でも今年中に機構本部の承認を得て現実的な設計等に着手する必要があります。そのためには経営の安定化を図ることが大前提でありますが、なによりも重要なのは全職員が一丸となり新病院建設という大きな目標の達成に向けて努力する姿勢・機運の盛り上がりではないかと考えます。どうか今年は沖縄病院が将来に向かって邁進するために意義有る年となることを祈念して年頭の挨拶といたします。

# 年頭の挨拶

看護部長
金　城　秀　子

新年のお慶びを申し上げます。

平成24年度は、「リスタートプラン」施設から始まり、チーム力と組織力等が求められた試練の年でした。しかし、職員皆さんの努力により、特に後半からは、患者数も増えリスタートプラン施設から脱却できそうな勢いです。

看護部のニュースとしては、感染管理の認定看護師が誕生し、当院では、緩和ケア認定看護師に続き二人目の認定看護師が誕生したことです。二人の認定看護師が、各職場の巡回と相談を継続することにより、看護ケアの“あるべき姿”と“現状”が明確になりGAPを認識できました。

今年は、“あるべき姿”と“現状”のGAPを緩和するために一人ひとりの職員が、自分の最大限の力を出し、患者さんに喜んでもらえる看護を『全員参加』で提供したいと思います。患者満足度を高めるためには、全員で取り組むことが重要だと考えます。そして、私は、看護ケアの成果に責任をもち各部署を支援します。

私は、役割上職員の育成をどのようにしたらよいかとマネジメントのPDCAサイクルをガーデニングに置き換えて考えることがあります。昨年の9月頃より、チューリップの植え付けの為に土づくりを始めました。チューリップは、一定期間寒さにあてないと開花しないため、温暖な沖縄では、球根を冷蔵庫で管理しその後植え込みをします。今回は、その方法を検証する為に100球購入しそのうちの50球を直接植え込み、残りの50球は、冷蔵庫の野菜室で約2ヶ月間冷所管理を行いその後植え付けました。その結果、冷所管理を行った球根は、発芽が早く先に植え付けた球根は、どうなるのかと不安になりました。『大事なモノは、手抜きをしてはいけない』と反省しながらも春には、環境の異なる100球がどのような形で色とりどりのチューリップの花を咲かせてくれるのかと楽しみに水やりをしています。

最後になりましたが、平成25年が、私達、沖縄病院の患者家族や職員にとりまして良い年となるように皆で頑張っていきましょう。

# 新園舎へ引っ越しました

沖縄病院あゆみ保育園
園長　藤江　りか子

11月6日。待ちに待った新園舎落成式を開く事ができました。セレモニーでは、2歳児以上クラスの15人がかわいいエイサーを披露し花を添えた。院長先生より「将来を担う子どもたちの教育は、かけがえのないもの。宝である。働き続ける職員の希望にもなる。」との、あいさつを頂き保育士の責任の重さを実感している。

新園舎での快適さを挙げれば紙面が足りないが（笑）

・ほふく室を含む広い保育室。
・採光、換気の確保。（自動式ボタン対応の排煙窓）
・年令に合ったトイレ、手洗い設備の設置。
・芝の敷き詰められた広～い園庭。
・日光浴の楽しめるテラス。・・等など

これからも子どもたちに対しては、命の育みの為の時間を預かる「良質保育」の提供。保護者に対しては、選択して頂ける「良質のサービス」の提供。病院に対しては納得して頂ける「良質運営」の提供を務めてまいります。

施設内でみごとな花を咲かせる木があり子どもたちが、桜子ちゃんと名前を付け毎年観察を続けている桜の木。その木が新園舎入口にあります。桜の木は冬の風雪に決して負ける事がなく、太い幹の中にも、細い枝の先にも桜の命が逞しく息づいており、だからこそ、春になれば美しい花をいっぱいに咲かせるのだそうです。さまざまな体験を活かし、生きる力を学び、感謝と思いやりの心を持った心豊かな、そして桜の花のように心のやさしい子をこの園舎で育んでいきたいと思います。素敵な園舎を本当にありがとうございました。

# 10月9日 西病棟に「パッチアダムス」が来る！

療育指導室　安里 栄子

私の頭の中には何故か「ロビン・ウィリアムス」が浮かび、療育指導室長・看護師長を差し置いて得意げに病棟を案内する私が浮かんだ。後で違うと分かった時でも、ロビンに似た方だろうと勝手に思い込んで一番わくわくドキドキしていたと思う。

当日、デイケア棟にて日本クラウン協会の人たちが、いろいろなパフォーマンスを見せてくれた。保育園の子供たちや森川支援学校の生徒、西病棟の患者様、大人も子供もピエロが作ってくれる色とりどりのバルーンアート、椅子を頭の上にて乗せバランスを取る曲芸などはハラハラドキドキしながら見入ってしまった。自然に笑顔になり、自然に大きな声で笑えた。ところがしばらくたっても、主人公のパッチが来ない。皆と一緒に病棟に戻りかけたとき、急に大きな体が（190 ㎝はあるかも）、のそっと面会室から出てきて、びっくりする私に視線をそらさず近づいてきた。わくわくドキドキが「どうすればいいの？」と顔は引きつり「怖い」と思った。

すると、くるっと向きを変え患者様の所へ。無表情で近づいていくので患者様も顔がこわばっている。しかし、目の前に来ると、優しい表情で手を握り、額を寄せて何度も語りかけた。それはしばらく続き、こわばった表情の患者様もだんだんと笑顔になっていく。そばで見ていた旦那様が怒らないかとハラハラしたが、その時は何とも言えないオーラが漂わせ、周りに微笑み運んでいた。

それからは病棟案内役の職員をしり目に、どんどん好きな部屋に入っていき、ベッド上の患者様に声をかけ始めた。大きなお尻を揺らし歌を歌ったり、手を取ってダンスをしたり、また、忙しそうに動いている職員を待ち伏せし、「ワッ」とびっくりさせる自由気ままに動くパッチだった。

時間がないとせかすスタッフをわざと？見ないふりをし、プレイルームにいる患者様の前で、師長、副看護部長、私に踊れと言う。それも

患者様の足を持って！と無理難題を述べるのだ。恥ずかしそうに踊る師長たちにもっと「エキサイティングに」と自ら踊って見せてくれた。　帰りの車に乗り込んでも、見送りに集まっている患者様や職員に窓ガラス越しに「変な顔」を見せてくれ、最後の最後まで笑いの渦に巻き込んでくれました。

短い時間でしたが患者様、私たち職員をパッチの世界に引き込み、心温まるひと時を与えてくれたパッチアダムスさん、日本クラウン協会、スタッフのみなさんありがとうございました。

## 平成 24 年度 第 2 回 ISO 内部監査を実施して

企画室長
池田　克己

平成 24 年 11 月 28 日、12 月 12 日の両日、今年度第 2 回の ISO 内部監査が実施されました。ISO の年間監査は、2 回の内部監査と 1 回の外部機関によるサーベイランスがあります。今回の監査は内部監査 2 回目で、「職場目標が適正に管理されているか」をテーマに 18 職場を内部監査員が訪問し、6,7 月に行われた第 1 回監査の是正事項も対象に含め行われました。各職場の是正数は、今回総数で 23 件ありましたが、前回の監査と比べ「是正処置の必要性有り（適正に管理されていない）」が 5 件と少なく（前回 51 件中 18 件）今回に関しては比較的 PDCA（プラン ドウ チェック アクション）が回っている結果となりました。また、その中では『水平展開必要有り』の報告もなされ、内容は「三つ叉ソケットに定格以上の電化製品が接続されていた」、「情報流出の可能性があるパソコンが人目につくところに置かれていた」というものでした。以上については、当該職場ではもちろんですが、他の職場においても重大事故につながる危険があるので注意を徹底するよう ISO 推進委員会を通じ各職場に周知していただいたところです。今後、各職場から出てきた是正報告書を内部監査員が検証しその結果をフィードバックしていきます。

今年度 4 月から ISO の MR（管理責任者）をやらせてもらっています。その中で感じたことは、ISO を実施していると病院全体が 1 年を通じ絶えず ISO に携わっていきますので、必然とそれぞれの職場の PDCA が回っていくのだなと実感できたことです。平成 25 年 2 月 13 日、14 日は、外部機関によるサーベイランスが予定されております。ISO の品質マネジメントシステムを維持する、そして発展させていくことに欠かせない監査です。職員の皆様大変でしょうが、病院の品質を維持する為のものです。これから先も一緒に頑張っていきましょう。

## 係長任用候補者選考試験を受験して

企画課　経理係
新里　真尋

去った 11 月 12 日に九州医療センターにおいて、『係長任用候補者選考試験』が実施されました。選考試験は筆記・作文・面接で行われ、無事終了。合否については後日各施設を通して連絡をしますということでした（発表日については知りませんでした）。試験を終え、数日が過ぎたとある午後、事務部長から「新里さん、ちょっと…」と事務部長室に呼ばれました。「私何か数字間違ったかな、何だろう。」と内心どきどきしていたら、事務部長から「この度無事、名簿に登載されました（合格です）。」と伝えられ、ほっとしたのと、とても嬉しかったのを覚えています。今回はたまたま医事研修と重なり、二つの勉強を同時期にすることになり忙しかったのですが、チャレンジして良かったと感じています。この選考試験を受験するにあたっては、事務部長をはじめ諸先輩方に、忙しい業務の合間をぬって講義や面接対策をして頂いたので、改めて感謝を伝えたいです。ありがとうございました。

月日は早いもので、働き始めてからもうすぐ 4 年が経とうとしています。まだ一つの係しか経験が無く、昇任することに少し不安もありますが、選考試験の際に学んだ知識と実務に就いてからの経験を上手く組み合わせて、丁寧な良い仕事を出来る人材になっていけたらと思います。

## 係長任用候補者選考試験を受験して

経営企画係
金城　宏和

去る、11 月 12 日九州医療センターにて平成 24 年度係長任用候補者選考試験が行われました。上司から選考試験の被選考者の一人として名前が挙がっているとのお話しを頂くまでは係長試験は人ごとのように思っていました。と言うのも、国立病院機構に採用され 2 年余りしか経っていない私が受験をしていいものかどうか、その適性が自分自身あるかどうか疑問に思っておりました。しかし、上司や諸先輩のお話しを聞いていくうちに、今の仕事の幅を広げるためには受験も一つの道だと次第に思うようになり、試験を受験することを決心しました。受験前には諸先輩の協力のもと筆記試験対策や模擬試験、模擬面接を行い試験に備えました。試験当日は九州ブロック内の候補者が 20 名余り集まり、筆記試験、作文試験、面接試験に挑みました。試験結果は、見事合格との結果となりました。諸先輩には試験前にアドバイスやご指導を頂き、壮行会まで開いて頂き大変感謝しております。このご恩を忘れないよう、係長になった際には、今まで以上に仕事に励み病院を良くしていくよう尽力していくつもりです。

# 慰霊祭後に合同家族会を開催して

緩和ケア認定看護師　**奥間　かおり**

当院は、結核を含む「呼吸器疾患」、筋ジストロフィーを含む「神経・筋疾患」、肺がんを中心とした専門的医療を行っています。年間約 250 名の患者様が亡くなられ、毎年 11 月にこの 1 年間に亡くなられた患者様の家族をお招きし、慰霊祭を開催しています。今回は約 80 世帯の家族が慰霊祭に参加されました。

緩和ケア病棟では、「患者が療養しているときから死別した後に至るまで、家族が様々な困難に対応できるように支える」というホスピス緩和ケアの基本方針に基づき毎年、慰霊祭終了後には病棟で家族を招き茶話会を行い、患者様が亡くなられた後どのように過ごされてきたのか、気持ちの辛さはないかなど伺っていました。看取りまでの療養生活での思い出を振り返る中で家族の表情は和らぎ、次第に笑顔も見られるようになり、家族の辛さも少し軽くなっているようでした。

どのような疾患であっても、大切な身内を亡くされた家族の喪失体験はつらく、悲しいものです。

これまで、緩和ケア病棟だけで家族会を行ってきましたが、家族ケアは、緩和ケア病棟で看取りをした家族のみではなく、病院全体で亡くなられた患者様の家族を対象とするべきと考え、今回、初の試みとして旧保育園を使用し全病棟の合同「家族会」を行いました。病院スタッフの協力のもと、会場設営を行い、お茶と、手作りのお菓子で家族をおもてなしました。悲嘆の強い家族には、個別に心理療法士がカウンセリングを行えるように別室に相談室を設け安心して気持ちの表出ができるような環境作りに努めました。ゆったりとした音楽と、病院スタッフとの談話で、参加された家族の表情も和らぎ、「ありがとうございました。気持ちの区切りができました」「毎日泣いて過ごしていました。皆さん（病院スタッフ）と話をして少し前に進めそうです」などの言葉が聞かれました。時間の都合上、合同家族会に参加できない家族へは、慰霊祭にご参加いただいたことへの感謝とともに、「家に帰ったら○○さんへ報告してくださいね」と蘭の花一輪を手渡しました。足を止め、涙をこらえながら「ありがとうございます。父ちゃんも喜びます。皆さんに会ってきたよって伝えます」などの声も聞かれました。

今回、慰霊祭、家族会に参加された家族から頂いたお言葉や、表情から、グリーフケア（悲嘆のケア）につながったのではないかと感じました。私たち病院スタッフは日々病気と向き合う患者様と家族との関わりの中から、生きることを学ばせていただいています。これからも、患者様が生を全うされた後もつながりを忘れずに医療の提供を行っていきたいと思います。

# 幹部看護師任用候補者選考職員研修を実施して

副看護部長
**入来　恵智子**

平成 24 年度の幹部看護師任用候補者選考試験の受験者は 12 名で 11 月 3 日に試験が実施されました。試験を行うにあたり、研修を 9 月 7 日から 14 日まで 5 日間行いました。

研修資料の内容では、「独立行政法人制度及び組織の見直し」「わが国の医療制度の問題点」など、現在の国立病院機構を取り巻く情勢の変化に関連した内容や、経営管理の項目に「SWOT 分析と経営診断指標」が新たに取り入れられたことからも、変化する社会情勢を常に捉えながら幹部看護師として病院経営に関する分析力や行動力等が必要とされていることを感じました。また、労務管理として項目が設けられたことからも、職員が意欲を持ちながら働きやすい職場環境の整備に、幹部看護師の役割発揮が求められています。幹部看護師として、これらを含む様々な知識を修得していくために、院長先生や看護部長さん、事務部長さんをはじめ事務部や看護師長さん達など多くの方々に講師を務めて頂き、さらに、受験者の多くが試験に合格できるよう模擬試験の作成や模擬面接をお願いしました。受験者は、看護師として日常的に直接関わることが少ない診療報酬や労務管理、経営管理は特に理解が難しかったようですが、講義では積極的に質問したり模擬試験後に、一緒に研修資料を確認したりしていました。合格発表は来年の予定ですが、成果が実る事を期待しています。

# ～クリスマスコンサートを開催して～

緩和ケア病棟 看護師長
比嘉　千佳子

寒い毎日が、続いておりますが皆様体調はいかがでしょうか? 1 年が過ぎるのは、本当に早いもので、今年も残すところあと1週間あまりとなりました。まだまだ、たくさんのやるべき事があるように感じているのは、私だけではないと思います。

私の最大のやるべき事、それは病院主催の慰霊祭後の「合同茶話会」と緩和ケアチーム委員会で開催する「クリスマスコンサート」と言っても過言ではないと思っています。

その最大イベントの「クリスマスコンサート」は、患者様とその家族に職員による「手作り」のコンサートを催し、精神的な癒しの環境を提供する事を目的に、緩和ケアチーム委員で開催しております。

コンサートには、毎年「フルート演奏」の島袋成香さんとその友人の方々が参加されており、その華麗なフルートの音色に癒されました。今年は、毎月緩和ケア病棟でボランティア活動をしていただいております、當間清子さんとそのお孫さんも参加され、「民謡」を歌ったり踊ったりと会場の患者様と家族もとても楽しく参加されておりました。今回のプログラムには、病院職員がこの日のコンサートのために組んだ迷バンド?も参加しており、沖縄の歌を披露し会場がたいへん盛り上がっておりました。

無事に平成 24 年度のクリスマスコンサートを開催する事が出来たので、今年は参加された患者様とその家族に「平成 24 年度 クリスマスコンサート」についてのご意見を頂きたく、初めてアンケートを行いました。

アンケートの結果から、患者家族が「毎年、続けて欲しい」「感動しました」というご意見を頂きました。中でも、「自分をさらけ出す事で共有できる部分、力をもらえる部分など癒される部分が大きい事が今後の生きていく上で大変力をもらえた」という言葉に大変感動し、クリスマスコンサートが患者様にとって貴重な癒しの場であることを改めて確認しました。

「クリスマスコンサート」は7回目となり、年々その規模も大きくなり、緩和ケアチーム委員だけでは、開催するのが困難となっておりましたが、コンサートのプログラム作成から、病院内のアナウンス、会場の設営など、多くの病院職員の協力もあり、コンサートを開催する事が出来ました。

今後も、地域に貢献できる病院作りを目標に、このクリスマスコンサートを継続して開催し、患者家族の皆様へ癒しの場を提供していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

## 沖縄病院一般向け無料公開講座が下記のとおり開催されました。

| | 年月日 | 曜 日 | テーマ | 講 師 |
|---|---|---|---|---|
| 第 95 回 | H24 年 9 月 14 日 | 金曜日 | 「～主な血液化学検査項目の説明～」 | 検査技師長 岸本　明久 |
| 第 96 回 | H24 年 9 月 21 日 | 金曜日 | 「～関節リウマチについて～」 | 整形外科リウマチ専門医 豊原　一作 |
| 第 97 回 | H24 年 9 月 28 日 | 金曜日 | ～胆石症について～ | 消化器外科医師 久志　一朗 |
| 第 98 回 | H24 年 10 月 5 日 | 金曜日 | ～縦隔腫瘍（ジュウカクシュヨウ）について～」 | 呼吸器外科専門医 饒平名　知史 |
| 第 99 回 | H24 年 10 月 12 日 | 金曜日 | 「～肺結核について～」 | 呼吸器内科医師 原　真紀子 |

2 月には記念すべき、第 100 回目を迎える予定となってます。継続は力なり。職員一丸となって記念講演を成功させましょう。

# 忘年会

## 忘年会に参加して

栄養管理室
**加來　正之**

今年の忘年会では、レクレーション委員ということもあり余興を出すことになりました。

私のグループは、中３病棟と中材、企画課、研究検査科、薬剤科、栄養管理室でした。忘年会の２週間前に、2012 年の紅白歌合戦に出場するゴールデンボンバーのプロモーションビデオ（ＰＶ）をパロディ化（マネ）しスクリーンに流すことに決まりました。各部門に PV の DVD を配りましたが、業務時間外の撮影が合わず一週間前になり、ようやく撮影が行われました。撮影が始まると、皆さん顔色が変わりました。特に中３病棟と中材の師長さん方、企画課長は撮影する直前まで嫌がっていたのに、輝くほどのキレを見せてくれました。（実はこの３人が一番やりたかったのかもしれない…とひそかに思いました。）また、業務多忙な仲本先生や、饒平名先生にも無理を言って出演して頂きました。

皆さんの頑張りのおかげで、ぎりぎりの撮影であったのですが、編集もスムーズに行え、忘年会前日にしっかりと完成し、最優秀賞も頂きました。

忘年会では、他部門の余興もあり、地域連携室の AKB センターの金城さんには惚れ惚れしました。他にも、じゃんけん大会や、クイズ、抽選会など、参加型の催しもあり、参加した皆さんが楽しめた忘年会だったんじゃないでしょうか。

## 最優秀賞に輝いて

中３病棟　**豊里　和也**

さて去る、12 月 17 日に今年最後の大イベント「平成 24 年沖縄病院大忘年会」が多くの職員の参加の元に行われました。１年の集大成を思う存分に発揮し、病院という眠る事のない不夜城において参加することがかなわなかった職員の分も大いに楽しむことが出来ました。今回の余興では今年、紅白に初出場するゴールデンボンバーの「女々しくて」を披露しました。先生方をはじめ各部署の長の皆さんに忙しい中、業務が終わって間もない時間を使い恐る恐る余興の協力を依頼した所、しぶしぶ（目は活き活きしていましたけど）引き受けていただきました。その結果、私の所属する中３病棟を含むグループが余興において最優秀賞という栄誉？を頂くことが出来ました。年々、看護の質と共に余興の質も向上しており、日頃の職員間のコミュニケーションの賜物なのではないかと感じました。

個人的には完全燃焼して今年を締め括ることができました。笑顔あふれ患者さんに寄り添う看護を目指して、来年の忘年会でも頂点を目標に頑張っていきたいと思います。（笑）

## 感染防止対策委員会を開催して
### －感染防止対策加算について－

感染管理認定看護師
**金　城　友　子**

私は平成 24 年６月感染管理認定看護師の資格を取得しました。現在は病院内の医療関連感染を予防すること、患者様に安全な療養環境を提供すること、病院内で働く職員に安全な職場環境を提供することを目標に、感染管理者として専従業務に就いています。

平成 24 年度の診療報酬改訂に伴い、感染管理に関わる施設基準が新設され地域施設との連携が重要視されています。当院も診療報酬改訂に伴い『感染防止対策加算１』を取得しました。この『感染防止対策加算１』の施設基準では当院が主催し『感染対策加算２』を申請する連携施設と年４回のカンファレンスを計画し実施しております。カンファレンスでは、院内感染防止対策委員会の活動報告や連携施設間の情報交換を主に行っています。

また、『感染防止対策加算地域連携加算』の施設基準には、『感染防止対策加算１』を承認された施設間相互での感染管理や感染対策が実践しているか、チェック表を用いて病院内のラウンドを実施しなければなりません。当院は昨年 11 月に連携施設である琉球大学付属病院の感染管理認定看護師、医師等による、相互でのラウンドを実施しました。当日は、私の他に医師、細菌検査技師、薬剤師、看護師が対応し会議録、感染対策マニュアル、コンサルテーション記録等の閲覧から始まり、カンファレンスを実施しながら病棟、外来、細菌検査室等の院内ラウンドを無事に終えることができました。この連携施設相互のラウンドで、アドバイス頂いたことについて院内の多職種で情報を共有し、感染管理を実践することが今後の課題です。

## 国立病院総合医学会に参加して

北３階病棟　上野　明子　名嘉みずえ

今回、国立病院医学会のポスターセッションの部へ参加させていただきました。当病棟の看護研究は、医療安全部門で「排泄関連の転倒・転落事故防止への取り組みと今後の課題」です。転倒・転落は、インシデント・アクシデント事例の中で発生確率が高いだけあって、閲覧する方が多く、活発な質疑応答などの意見交換もあり、やはり関心を引く部門だと思いました。発表の結果、ベストポスター賞を受賞することができました。この看護研究を取り組むにあたり関わった全ての人に感謝しています。一生懸命に取り組んだことがベストな形で評価されるということは、正直、最高にすがすがしい気分でした。
当病棟の研究は、今年の看護研究でも継続されており、病棟一丸となって頑張っています。これからも、よい方向へ改善され、患者様の安全面を考慮した看護へとつながることと思います。
最後に、国立病院医学会は、他の病院の方々との情報交換の場となり、様々な研究を見て刺激受け、収穫の多い学びの場となりました。有難うございました。

西２病棟　当真　嗣也

11 月、神戸で開催された国立病院総合医学会のポスターセッションに「ジストニア患者に対する余暇活動を通した QOL 回復への取り組み」という演題で、演者として参加しました。発表に向けて、病棟師長をはじめ、副看護部長、看護部長からのご指導をいただきながら発表に向けて取り組みました。発表は 2 日目だったため、1 日目は同じ沖縄病院の他病棟の発表や、他施設で働く同じ療養介助員の発表を中心に聞きました。その中でも大牟田病院の療養介助員の発表は患者への援助に関する記録の取り組みで、院内の記録委員会にも参加しているというものでした。私たちも病棟患者への看護・介護の質の向上を目的に療養介助員の記録を導入したばかりなので、とても参考になりました。

発表では少し緊張しましたが、会場の雰囲気を楽しめるようにリラックスした気持ちで臨みました。ポスターセッションの発表は 3 分間という短い時間なので、あっという間に私の発表は終わりましたが、聞きに来ている方に少しでも自分たちの取り組んだ内容を伝えられるように、大きな声で明瞭に発表することを心がけました。私たちのポスターセッションの発表が終わり、8 題の中から座長賞の指名で名前が呼ばれたときは、まさか自分たちが選ばれるとは思っていなかったのでとても驚きました。しかし、この座長賞をいただいたことで、これまでの取り組みを認めていただけたことを実感することが出来、とても嬉しかったです。今後も今回の経験を踏まえ、病棟全体で患者の療養生活の向上に努めて行きたいと考えます。

## 実習指導者講習会に参加して

北２病棟　仲本　桂

平成 24 年 8 月 16 日～ 10 月 12 日まで国立病院機構九州ブロック主催　実習指導者講習会へ研修に行ってきました。久し振りの学習環境に、現場に戻りたい思いを抱きつつ（?）、２カ月という長い期間、研修に臨みました。中でも一番印象に残ったのは、青年心理を理解することの大切さでした。これまで新人指導にも携わってきましたが、青年心理を学んだことで、指導には対象理解が重要であることを知り、指導の仕方、思いを大きく変えるきっかけになりました。また、グループに分かれて実習指導案を作成したのですが、本当に熱い思いを持った看護師が集まってしまい…。発表当日まで「ああでもない、こうでもない…」と議論の山で話がまとまらず、朝まで討議を続けて夜明けにラーメンを食べたことも何度もありました。　後半は 3 日間で 4 時間しか寝ていない生活で、半ばおかしなテンションになっていましたが、熱い仲間達と出会い、同じ目標に向かって頑張ってきたことは看護師である私にとって大きな財産となりました。研修に参加させていただき本当にありがとうございました。

## 認知症高齢者看護 エキスパートナース研修に参加して

北３病棟　看護師長
大　塚　貴　幸

高齢者や認知症患者は厚生労働省の予測より早期に増加しており、認知症患者対応は診療科を問わず看護場面で必要になります。私は９月11～14日の４日間、熊本県にある国立病院機構菊池病院で行われた認知症高齢者看護エキスパートナース研修に参加しました。九州管内の機構病院より19名の参加があり、主に経験５年から７年目の看護師が多く参加していました。

研修は講義と実習による学習で、知識と実技が統合されるよう配慮されたものでした。認知症治療病棟では、患者のペースに合わせた介助方法や転倒のリスクを考え不要な物は一切置かない環境などの配慮がありました。当院で考えると、認知症看護でワンフロアなどのハード面での対応はできないが、環境を整えるなど日々の看護場面でも対応できることは多くあります。また認知症患者看護について、患者のペースを守ることが大切であることを学びました。業務に追われ、作業的な介助を行うと患者は大声を出すなどの反応をされることがわかりました。認知症患者の看護には、マンパワーだけでなく認知症高齢者の患者個々に応じた専門的なアセスメントと看護実践能力が必要です。患者さん中心のチームとして取り組み、より良い治療環境が提供できるようにしていきたいと考えています。

## 神経・筋難病 エキスパートナース研修を受講して

西１病棟
又　吉　直　樹

今回、10月15日から18日の４日間、長崎川棚医療センターでの研修に参加させていただきました。研修を受講するにあたり、自分の課題を筋ジス患者のQOL向上を図る上で、どのような看護援助介入が必要なのかが理解できること、患者のQOL向上を図る上で、どのような専門的知識やアセスメント能力が必要であるか明らかにする事等として研修に臨みました。

神経・筋難病は、他の疾患とは異なり現在の医療において原因や治療などが明らかになっておらず、活動・認知・生命維持など人が生きる為必要不可欠な部分に障害が起こります。障害の程度や進行は、患者個々によって異なりますが効果的な治療がないことから、慢性的に機能が低下しQOLの低下が容易に起こる環境といえます。また、神経・筋難病は、構音障害によって相手に何かを伝える部分に障害が起こりコミュニケーションが難しくなります。その中で、患者の思いを聴こうとする姿勢や行動がQOL向上の第一歩になることや、患者の残存機能の把握やQOL向上に向けての看護介入が必要になると感じました。その為、常日頃から医療者、患者・家族とお互いの信頼関係を築く為にも、スタッフが同じ関わりを持てるようにカンファレンスを行い、意志統一を図っていくことも重要になってくると思いました。今後、課題が達成できるよう研修の学びを実践していきたいと思いました。

## 緩和ケアエキスパートナース研修

緩和ケア病棟
與那覇　弘　和

今回、10月30日～11月２日の４日間の日程で、南九州病院で行われた緩和ケアエキスパートナース研修に参加させていただきました。

私は、緩和ケア病棟で６年間勤務しており、今回の研修に参加するにあたり、日々の自分が行っている患者・家族との関わりの場面を振り返りながら研修に参加しました。講義では、緩和ケアにおける医学総論、疼痛や呼吸困難、その他の症状緩和に対する知識、家族看護を学びました。

事例検討会では、各グループに分かれて全人的苦痛を４分割し、症状緩和について意見交換が行われました。これまで、患者を全人的に見たときに身体的側面においては、患者・家族・医師との連携を密にしながら関わっていましたが、精神・社会・スピリチュアルの面ではなかなか踏み込めていない自分がいた事に気づきました。

緩和ケア病棟の見学の中で気づいたことは、配管類が目線より低い位置で、引き戸内に納められ細かな配慮がなされていた事でした。また、病室を退出する際には、患者・家族が看護師へ何らかのサインを出す場合があるのでそれを見逃さないように観察しながら退出をすることが大切であることを学びました。

カンファレンスでは活発な意見交換が行われており、自病棟でもカンァレンスで、もっと積極的に情報交換や意見などが言えるような環境作りに努めていきたいと感じました。

今回の研修を通して、緩和ケアは看護の基本となるところが多いことから学んだ事を他のスタッフへ伝えて行きたいと思います。

## 第14回　神経・筋難病看護疾患研修に参加して

北２病棟
野　田　匠　悟

12月３日～７日の５日間、宇多野病院で開催された「第14回神経・筋難病看護疾患研修」に参加しました。研修には私を含め神経内科で勤務する65名の看護師の参加がありました。講義内容としては医師によるパーキンソン病・パーキンソン病関連疾患・ALS・多発性硬化症の疾患の講義と看護師による、それら疾患の看護の他、嚥下機能・食事介助に関しても解剖生理、食事介助の講義があり基礎から学ぶことができました。沖縄病院でも嚥下困難の患者が胃瘻造設の目的で入院することがあり、これまで胃瘻造設前は食事形態を考慮しながら、嚥下状態をしっかり観察しながら、食事介助を行っていました。研修では嚥下困難な患者には複数嚥下・交互嚥下・横向き嚥下が有効であることや、ポジショニングに関しても重力を利用して嚥下しやすくするポジショニングがあると知り、ただしっかり座らせるだけがポジショニングではないと学ぶことができました。また摂食・嚥下の講義を通して摂取量など栄養面ばかりに気がいっていた事に気付き「食事を楽しむ」ことを忘れかけていた自分に気付く事もできました。今回の研修に参加して、一番感じたことは、慢性期はデータなど数値化出来るものではなく、「人」を看ていかなければ看護が提供できないと強く感じられた研修内容でした。当院でも来年度は言語聴覚士の採用予定があることから嚥下困難患者の嚥下観察はもちろんのこと、患者が食事を楽しむためにはどのように取り組むか、言語聴覚士と協力し今後の看護ケアに活かしていきたいと思います。

# 外来診療科担当医表

**診療受付時間**

内　　科：8時30分～12時まで
外　　科：8時30分～15時まで
胸部精査：8時30分～16時30分まで（12時以降は外科）

平成24年11月1日現在

| | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 内科 | 呼吸器内科（紹介状あり）(8:30～12:00) | 仲本　敦 | 那覇　唯 | 《外科担当》 | 原　真紀子 | 【交代制】<br>1週目　仲本<br>2週目　大湾<br>3週目　那覇<br>4週目　原<br>5週目　仲本 |
| 内科 | 呼吸器内科 一般内科 禁煙外来（紹介状なし）(8:30～12:00) | 久場睦夫<br>原　真紀子 | 仲本　敦 | 久場睦夫<br>アスベスト外来【毎週】久場 | 那覇　唯 | 久場睦夫<br>仲本　敦 |
| 内科 | 消化器内科 (8:30～12:00) | | 樋口大介 (8:30～11:00) | 樋口大介 | 樋口大介 | |
| 緩和医療外来 | | | 大湾勤子 | 上原忠大 | 大湾勤子 | |
| 神経内科 | 新患 (8:30～12:00) | 諏訪園　秀吾 | 森山宏遠 | | 末原雅人（予約制） | 藤﨑なつみ（予約制） |
| 神経内科 | 新患 (8:30～12:00) | ※初診の方の受付は、診察に時間を要し検査等も必要ですので、午前中までの受付になります。<br>※急患の場合はご相談下さい。なお、再診は予約制です。予約時刻までにおいで下さい。<br>※木曜日、金曜日初回受診の患者さんを当院に紹介して頂く場合は、事前に地域医療連携室にご連絡を頂き、受診日時の予約をお願いいたします。 | | | | |
| 神経内科 | 再診（予約制） | 藤﨑なつみ | 末原雅人 | 末原雅人 | 森山宏遠 | 諏訪園　秀吾 |
| 放射線科 | | 大城康二 | 大城康二 | 大城康二 | 大城康二 | 大城康二 |
| 放射線科 | | ※CT・MRI・RI検査・放射線治療（リニアック）は随時受付 | | | | |
| 外科 | 呼吸器外科 血痰外科 肺ドック (8:30～15:00) | 河崎英範<br>久志一朗（消化器） | 石川　清司（午前）<br>伊地　隆晴（午後） | 石川清司<br>饒平名知史 | 川畑　勉（午前）<br>平良　尚広（午後）<br>久志一朗（消化器） | 川畑　勉 |
| 整形外科 | | 豊原一作（午前中） | 豊原一作（午前中） | 豊原一作 (8:30～11:30) | 豊原一作（午前中） | 豊原一作（午前中）（第4週目休診） |
| 専門外来 | | 【乳腺・甲状腺外来】<br>天願　敬（予約制）<br>(14:00～17:00) | 【乳腺外来】<br>野村　謙（予約制）<br>(13:00～17:00) | 【総合相談】<br>石川清司<br>(13:00～16:00)<br>【ピロリ菌外来】<br>樋口大介<br>(13:00～15:00) | 【ピロリ菌外来】<br>樋口大介<br>(13:00～15:00) | |

※ご不明な点・予約変更等ありましたら下記へお問い合わせ下さい。**お問い合わせ時間は、9：00～17：00までにでお願いします。**

独立行政法人国立病院機構　**沖縄病院**　〒901-2214 沖縄県宜野湾市我如古３丁目20番14号
TEL 098-898-2121(代)　FAX 098-897-9838

**編集委員**　川畑　勉、伊藤 淳司、入来 恵智子、山下 博史、待鳥 泰浩、八木 茉璃、吉丸 健一、新里　満、安里 英子、島田 明子、金城 富樹、大城 英作



**独立行政法人国立病院機構 沖縄病院**　〒901-2214 沖縄県宜野湾市我如古３丁目20-14
TEL 098-898-2121　FAX 098-897-9838　ホームページ　http://www.okinawa-hosp.jp/